

【編集・発行】
 2022年3月版
 千葉県北千葉道路建設事務所
 〒286-0017 成田市赤坂2-1-14
 TEL:0476-28-1411



仮称土屋橋と仮称下山橋の整備状況(令和4年1月撮影)



北千葉道路とは

一般国道464号北千葉道路は、常磐道と東関東道のほぼ中間に位置し、平成30年6月2日に開通した外環道(千葉県区間)から千葉ニュータウンを経て、成田空港までを最短で結ぶ延長約43kmの幹線道路です。
 北千葉道路の整備により、沿線地域の慢性的な交通混雑の緩和や首都圏の国際競争力の強化に資するとともに、災害時における緊急輸送道路として機能するなど、様々な効果が期待されます。

北千葉道路の概要



北千葉道路(印西～成田間)の整備状況

北千葉道路(印西～成田間)約13.5kmのうち、印西市若萩から成田市押畑までのⅠ期区間約9.8kmが平成17年度に、残る成田市押畑から大山までのⅡ期区間約3.7kmが平成19年度に、それぞれ事業着手しました。
 Ⅰ期区間については、現在、県と国が分担しながら事業を行っており、起点部となる印西市若萩から成田市北須賀までの約4.2kmを県施行区間として、続く、成田市北須賀から押畑までの約5.6kmを国施行区間としてそれぞれ整備を進めています。
 県施行区間については、平成29年2月19日に、国施行区間についても平成31年3月3日に暫定2車線で開通しています。
 Ⅱ期区間については、全線を県施行区間として、早期開通を目指し、工事を進めているところです。



北千葉道路(印西～成田間)の計画概要

事業名：一般国道464号北千葉道路(印西市～成田市)
 起点：印西市(旧印旛郡印旛村)若萩地先
 終点：成田市大山地先
 延長：約13.5km
 道路規格：第3種第1級(設計速度80km/h)
 車線数：4車線
 主な交差道路：一般国道464号、408号、51号など



ますます高まる!北千葉道路の整備効果

- その1. 広域道路ネットワークの強化・物流効率化の支援
～地域活性化の実現～
- その2. 交通処理能力の向上・成田市街地の交通円滑化
- その3. 救急医療・防災機能の強化

周辺道路の交通円滑化

国道408号は、主要渋滞箇所4箇所が連担しており、特に土屋交差点では、交通混雑が顕著となっています。今後、Ⅱ期区間の整備により、広域交通と生活交通が分離し、交通の円滑化が期待されます。
 また、この交通混雑を一因とした追突事故の減少も期待されています。

北千葉道路整備後の成田市街地の交通量・混雑度



防災機能の強化

北千葉道路の整備により、下総航空基地などの広域防災拠点や千葉北総病院などの第3次救急医療施設が結ばれ、災害時における物資の輸送、救急医療活動の支援などが期待されます。

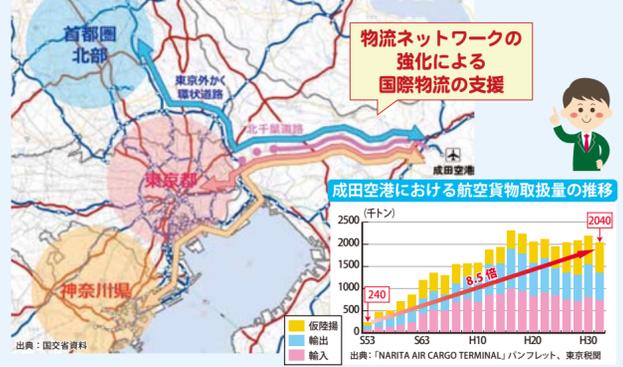
緊急輸送道路と広域防災拠点・救命救急センター



物流効率化の支援

国際拠点空港である成田空港の貨物取扱量は増加傾向にあります。成田空港では2028年度末を目標に機能強化を進めており、今後の交通需要の増加が見込まれています。
 北千葉道路の全線整備により、国際物流ネットワークを構築し、首都圏の国際競争力が強化されることが期待されます。

北千葉道路と東京外かく環状道路の連携による物流ルートの形成



北千葉道路周辺の主な企業立地状況



印西市泉野周辺



北千葉道路は沿線地域の交通利便性の向上、経済の活性化、成田市街地の交通の円滑化、成田への観光客の誘致等にとって重要な道路であるとともに、救急医療体制、災害時における緊急輸送においても大きな役割を果たします。

※1次救急(初期救急)：入院の必要がなく帰宅可能な軽症患者に対応する医療施設。
 2次救急：24時間体制で救急患者の受け入れができる医療施設。
 3次救急：1次、2次救急では対応できない重症・重篤患者に対応する医療施設。

北千葉道路全線が開通することで、交通状況に応じたルート選択が可能となり、緊急搬送の迅速性・安全性の向上が期待されます。